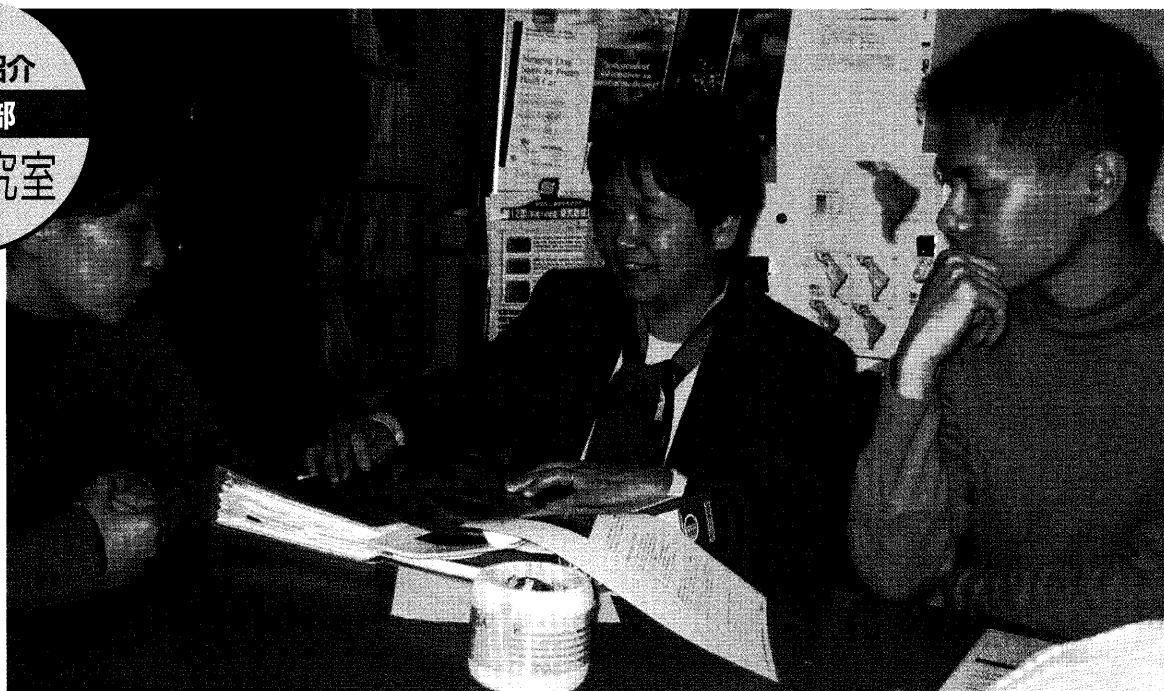


研究室紹介

薬学部

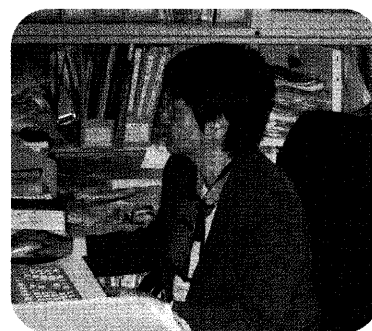
木村研究室



木村 和子教授(中央)

国内初！インターネット薬学講座を 産学連携によって実現

金沢大学薬学部は2002年1月、ソニーと連携して、国内初のインターネットによる薬学講座(ソニー・メディカル・チャンネル 金沢大学大学院医療薬学講座)を開講。スタート以来、日本全国から1講座あたり1000人以上という多数のアクセスがあり、現在も受講者から大変な好評を得ています。今回は、このプロジェクトの中心的役割である木村和子教授に話をお伺いしながら、その取り組みを紹介していきます。



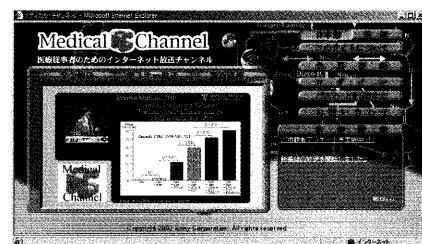
金沢大学大学院医療薬学 講座とは？

ソニーのインターネット放送局に、最新の医療情報を映像と音声で発信する「メディカル・チャンネル(<http://www.medch.tv/>)」があります。そのチャンネルのひとつとして開講しているのが「金沢大学大学院医療薬学講座」です。講座は医療現場で活躍する薬剤師を対象にした大学院レベルの内容で、画面には、金沢大学大学院の教官による講義の模様と、関連資料などが同時に映し出されます。実際に講義を受けているような臨場感の中で視聴できるのが特長です。また日本薬剤師研修センターのインターネット研修にも認定されており、これを視聴した方が申請すると、認定をうけることができるようになっています。サイトは無料会員制で、誰でも視聴できることから、薬剤師だけでなく、医師、看護師など様々な医療従事者がこの講座を活用しています。

1講座の視聴者は1000人にのぼり、「非常に勉強になる」、また金沢大学の卒業生からは「母校の素晴らしい取り組みに感動した」など、日本全国の受講者から多くのコメントが寄せられています。金沢大学大学院医療薬学講座は、まさに、現代の薬剤師たちが求めていた「学習の場」となったわけです。

きっかけは、インターネット を活用した大学院構想

そもそも、このインターネット講座がスタートしたきっかけは、社会人を対象にした大学院構想からです。なぜ薬学でそういった考えが始まったかというと、医薬分業により、薬剤師が医療従事者として積極的に医療に参加するようになったことが大きな要因として挙げられます。医療に従事する立場として、一般社会で働く薬剤師も、社会のニーズに応じて最先端医療の勉強をしていかなければならなくなりました。薬



メディカル・チャンネル

ソニー株式会社提供

剤師の生涯教育の機運がどんどん高まってきたわけです。そこで、いったん社会に出た薬剤師に教育の機会を提供するにはどうしたらいいのか、と思いインターネットの活用を考え始めました。インターネット以外にもやり方はあつて、他大学では夜間部を設けているところもあります。しかし、金沢くらいの中規模都市では、学生の誘致問題からいってもそれは物理的に難しい。働いている人が時間を気にしなくてもいい、そして日本全国からアプローチしてもらえるシステムということで、インターネットは最も有効な手段でした。

インターネットで どこまでできるのか

基本的には、大学院教育を考えています。それでまずはインターネットで本当にどこまでできるのか、社会人の方に勉強してもらえる場を提供することにしました。そんな時、ソニーが医療従事者向けのインターネットコンテンツを考えていると耳にしました。話し合いの中で両者のニーズがうまく合致し、連携してインターネット講座を開発していくことにしました。おかげで、技術面はソニーにお任せし、我々は集中してコンテンツに専念できました。講義内容はかなり凝縮された質の高いものを提供していると思います。

講師にとっては、 「誰にみられるかわからない」 という緊張感が…

インターネットの講義には、これまでにない新しい経験もたくさんありました。例えば、講師は、普通の大学での講義と違い、日本中で誰にみられるかわからないという緊張感のもと講義を行わなければなりません。しかも、実際に前で聞いている人がいないため、カメラの向う側の受講者の反応がつかめない。ベテランの先生でも、カメラの前で講義をするのは難しいという意見が多かったようです。それでも中には、やってみると意外と向いているという先生もいたりして、それぞれに新たな自己再発見があったようです。他にも、例えば講義資料の作成の際、著作権や引用等の点で、通常の講義よりもさらに注意を払いました。それからインターネットでは、講義へのコメントや評価もされますから、講師にとっては、いろいろな意味でとても刺激になったようです。

薬剤師の求めている 形を実現

このインターネット講座を視聴してコメントを寄せてくれる方は、実社会で薬剤師として、また他の医療現場で揉まれながら、経験を積んでいる方が多いようです。それで講座では、大学院レベルの内容を流していますが、貪欲に吸収して学んでくれます。本当にこちらの狙い通りの反応を返してくれる方も多く、日々の業務の中で最先端の知識を求められていることをあらためて実感しています。もちろん、最新の文

献などを読んだりして勉強することも可能ですが、インターネット講座は、また本で読むのとは違った新鮮さがあるのではないかと思います。我々が講座をスタートした後、我々以外にも「薬剤師の生涯教育」という形でインターネット講座が始まっているようです。繰り返しになりますが、やはり、このようなインターネット講座が社会に出た薬剤師たちに本当に求められている形なのです。金沢大学大学院医療薬学講座はまさに先頭に立ってそれを実現したと言えます。

学位までには まだまだハードルも

もともとは、大学院として学位を出すことを目的にしていたわけですが、インターネットによる大学院構想にはまだまだ越えなければならないハードルがあります。現在のインターネット講座は、登録さえすればだれでも受講でき、年齢も資格も、国籍も何も問わないというものです。しかし、大学院となると、しかるべき学位を出すためのシステムを考えなければなりません。そこには、やはりインターネットだけではクリアできない問題も出てきます。まず、薬学部の場合、実習が必要です。これはインターネットで行うことは難しいですね。実社会での経験を認定するなどの策もあると思いますが、まだまだ議論しなければならないでしょう。

さらにインターネット講座の 課題解決へ

とはいえ、今回の取り組みによって、講義の面では、インターネットは非常に大きな存在であると実証できました。しかし、この講座を引き続き社会人を対象とした生涯学習の場として発展させていくのか、そ



れとも大学院へと発展させるのかという議論以外にも、数多くの課題があります。インターネット講座と昼間の授業の両方を聞いた学生からのコメントですが、一つは、講義自体が、ある意味すごく凝縮されて、完成度の高いものになっている分、1回視聴しただけでは難しく理解できない場合があるということです。実際の大学の講義では、学生の反応を見ながら、繰り返し説明したり、図を描いてみたりと、その場で即、対応できます。しかし、インターネット講座ではそれができません。その解決方法として、チャットなど、インターネットを通じたディスカッションがあると思います。これまでの片側通行から、双方向のやりとりを考えなければなりません。それでも文字ではなかなか伝わらないなどの課題が出てくるでしょう。今後は、こうしたインターネット講座が克服しなければならない課題を解決し、よりリアルに近い学習の場を提供していきたいと思います。

関連ホームページ

金沢大学大学院
自然科学研究科医療薬学専攻
国際保健薬学研究室
<http://www.p.kanazawa-u.ac.jp/~iyaku/byoutai.htm>

ソニー メディカル・チャンネル
<http://www.medch.tv/>



Profile 木村 和子教授 ○きむら かずこ 薬学部医療薬学講座 国際保健薬学研究室

東京大学薬学部、同大学院薬学系研究科修士課程修了。薬学博士。
厚生省、人事院、医薬品機構、世界保健機関(WHO)において行政官として24年間に渡り活躍。WHOでは、プロジェクトリーダーとして二つの国際医薬品プロジェクトを成功に導いた。2000年4月現職就任後は、それまでの行政や国際社会での様々な経験を生かしながら、国際的視野にたつて社会的施策の実施をサポートする研究を行うほか、インターネットを利用した医療薬学教育の実践等、人材育成にも尽力する。

